

# 『ARTS&ARCHITECTURE』誌の概要とその特徴

—1945 年から 1954 年—

'ARTS&ARCHITECTURE' outline of magazine and the feature

-1954 from 1945-

○植村嘉仁<sup>1</sup>, 大川三雄<sup>2</sup>

\*Yoshihito Uemura<sup>1</sup>, Ohkawa Mitsuo<sup>2</sup>

t thinks the review of thought ' ARTS&ARCHITECTURE ' to be important when having greatly contributed to the production of MODERN LIVING at the formation time of an American society named postwar days the deepen of the understanding of MODERN LIVING. It aims to analyze the relation between the outline, the feature of ' ARTS&ARCHITECTURE ', and the magazine and the society based on such a background in the present study.

## 1. 研究目的と背景

『ARTS&ARCHITECTURE』誌(以下『A&A』とする)に関する研究は『A&A』に掲載されている独立住宅の空間構成に関するものや『A&A』上で展開された Case Study House Program (以下 CSHP とする)に関するものに分けられる。<sup>註1</sup> 既往研究の成果は豊富であり、彼らの目指した理想住宅像や国際様式とは異なる近代建築の地域的側面を考えるうえで、様々な知見が得られている。しかし、『A&A』や CSHP の中心人物であると考えられるジョン・エンテンザに関する研究は少ない。エンテンザは近代建築の推進に大きな興味と責任を抱いていた人物である。戦後というアメリカ社会の形成時期に MODERN LIVING のプロデュースに大きく貢献したと考えられる『A&A』(1945 年～1954 年;全 117 冊を対象)の動向を見直すことは、MODERN LIVING の理解を深めることに重要であると考えられる。本研究ではこのような背景を踏まえて『A&A』の概要とその特徴、雑誌と社会動向との関係性を分析することを目的とする。

## 2. 『ARTS&ARCHITECTURE』誌の概要

1938 年以前『CALIFORNIA, ARTS&ARCHITECTURE』といったタイトルのもと、他の建築雑誌と同様に近代建築とスパニッシュ・コロニアル・リバイバルやミッショ

ン・スタイルなどを同時に記載していた。しかし、エンテンザが 1938 年にこの雑誌を買い取り編集者兼発行者になってから、以前とは雑誌の性格が変わり近代建築中心の雑誌となっている。ロサンゼルスを中心とした建築や芸術、技術を取り上げ、少数派で前衛だったモダニズムを取り上げ、市民を啓蒙するのに大きく役立った。月刊で販売され、初刊の価格は 1 冊 50c [\$1=3.45 円 (1934 年～1941 年) 50c=約 1.7 円] で、1 年間の定期購読も可能でアメリカとメキシコ、キューバでは \$3.50、カナダとその他の諸外国では \$5.00 である。

EDITOR(編集長), EDITORIAL ASSOCIATES(編集部), STAFF PHOTOGRAPHERS(カメラマン), EDITORIAL ADVISORY BOARD(編集顧問委員会)・ADVERTISING MANAGER(広告経営者)の 5 つの雑誌制作の組織化を形成している。エンテンザは、編集長として組織のトップとして変わることはないが、編集部やカメラマン、編集顧問委員会の構成には変化が見られる。その中には、編集部に C・イームズ(1945/1～1952/12)、編集顧問委員会に R・ノイトラ(1945/1～)、E・サーリネン(1946/6～1953/3)、R・ソリアーノ(1947/1～1953/11)がそれぞれ携わっている。

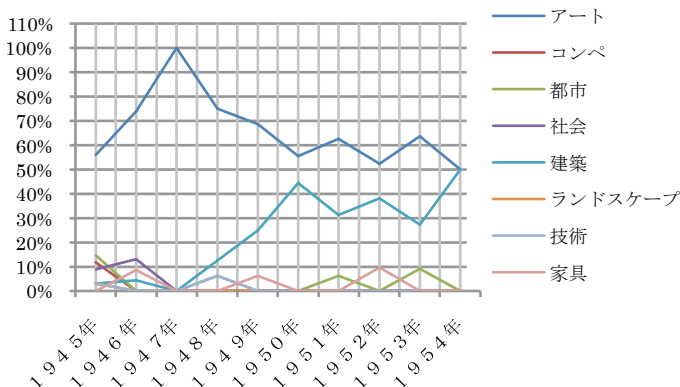


表 1. 「articles」欄の記事数の推移

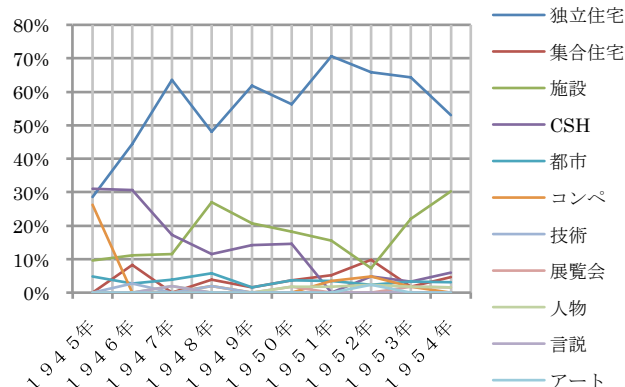


表 2. 「architecture」欄の記事数の推移

### 3. 目次の構成について

目次の構成は全体としてみると多少の変化はみられるが、基本的には一定の骨格に沿って組み立てられている。原則として「articles」欄、「architecture」欄、「special features」欄の3つの項目から構成されている。「articles」欄は言説などの記事、「architecture」欄は建築作品の紹介、「special features」欄はその時々々のアートや技術の新しい情報の報告が掲載されている。それに加え、企業の広告が多く掲載されることで基本的な紙面構成が図られている。

以下に目次構成を前期と後期に区分して、時間の経過と共に『A&A』に見られる記事の変動を分析する。

#### 3-1. 前期【1945年-1949年】

1945年以降の急激な人口増加に伴い、1947年にコリエー・バーンズ法<sup>注2</sup>が制定され1960年まで高速道路網の建設が活発化する。「移動」が盛んに行われ、都市と都市、市街地と郊外など自由な動きが可能になった。1945年当初は絵画などのアートを中心とした記事が多く掲載されているが、徐々に彫刻などのアートに関する記事が増え、立体への関心が芽生えてくる。また“動く彫刻”や“カタチと動き”といった、動きをもったアートが登場するのもこの時代の特徴である。高速道路の建設による移動の活発化は、人々に動きへの欲求を与え、アートもまた高速道路と同じようにその欲求を満たすツールとなる。表1が示すように、1950年を境に建築に関する記事が徐々に増加してくる。

建築に関する記事の特徴はE・メンデルゾーンやノイトラなど幅広い分野に関する人の言説が主である。「architecture」欄において取り上げられている作品には、ドライブインレストランやガソリンスタンドといった自動車に関する作品の登場が「移動」ということを特徴付けている。表2が示すように、独立住宅に関する記事数は多い。しかし、この時期、独立住宅に関しては124戸の独立住宅が掲載されているが、その中で67戸、約54%の独立住宅はスケッチや模型、図面などだけで実施不明の作品である。集合住宅においても実施不明の作品が約67%と多い。しかし、工場生産によって工場から住宅の「移動」や人の体感するこれまでの室内から室外への「移動」を予感させる“工場の中の住宅”や“移り変わる住宅”、“アウトドア・リビング”といったテーマの住宅が「移動」ということを特徴付けている。

#### 3-2. 後期【1950年-1954年】

生活に関する関心が高まってきた時期であると言える。軽くて持ち運びのいいものを好むようになり、自由な「移動」を常に可能とさせる欲求が続いている。高速道路網の発達が文化に影響を与えたように、アートも影響を与える存在であると考えられるようになって行く。そして“アートと建築”や“アートと科学”といった記事が掲載されはじめる。前期とは異なり、独立住宅に関しては実施不明は約17%、集合住宅は約23%と実際に実施された作品の方が多く掲載されるようになっていく。つまり、生活に関する関心や近代住宅の実施が根付きはじめていくことが見て取れる。また、「special features」欄において前期は約3%程度しか家具に関する記事がなかったのに対して、後期は約11%と約3倍の記事数が取り上げられ、生活空間の中で身体に密接に関わる家具への関心が見て取れる。「special features」欄の項目の新しい情報の掲載という特徴から、生活に対する関心が増えていると考えられる。

### 4. 結論

『A&A』はカリフォルニアを中心としたアートや建築活動を社会動向と関連させた動的な雑誌と言える。海外の動向を積極的に掲載するよりは、地域に密着した雑誌構成にして実験性を促すことで、活発的に発展した高速道路網のように普及し得た。前期においてアートは写真や言説で建築は主に言説で示し、後期ではアートは建築や科学といったものと関連させ、建築は実施された作品を用いて示している。アートと建築、科学を立体的に示す姿勢は雑誌を通じて一般化された。

### 5. 参考文献

- [1] 『ARTS&ARCHITECTURE』, vol. 1~117, 1945~1954年
- [2] 那須聖・北原和俊・大島ケン正・八木幸二, 「ケース・スタディ・ハウス・プログラム」に見られる理想住宅, 日本建築学会計画系論文集第508号, 1998年6月
- [3] G. D. ナッシュ, 『二十世紀のアメリカ西部』, 玉川大学出版部, 1999年12月10日

#### 注釈

- 1) 『A&A』に掲載された住宅作品にはカリフォルニアを中心に建設された独立住宅とCSHとして一連のシリーズ化した住宅の2つの流れがあり、本稿での独立住宅にはCSHは含めない。
- 2) 30億ドルの高速道路網を生み出し、1960年までに大幅に延長されている。
- 3) 50年代の大陸横断航空記録によると、ロサンゼルス-シカゴ間の乗客の場合、西部人が東部人より2倍多い。そしてこの時期、太平洋岸の住民に発行された海外旅行用のパスポート数は、全米平均を50%も上回っていたことから、軽くて持ち運びのいいものを好む傾向が読み取れる。